

転倒災害危険マップを作成しよう！

1 転倒災害は最も多い労働災害！

令和3年の岩手労働局内の休業4日以上の労働災害1530件のうち、転倒災害は435件（28.4%）で、最も多い労働災害となっています。

2 転倒災害の種類と主な原因！

転倒災害は大きく3種類に分けられます。

| 滑り | つまずき | 踏み外し |
|--|--|--|
|  |  |  |
| <主な原因> ・床が滑りやすい素材である。 ・床に水や油が飛散している。 ・ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている。 | <主な原因> ・床の凹凸や段差がある。 ・床に荷物や商品などが放置されている。 | <主な原因> 大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業している。 |

3 転倒の危険マップを作成し、転倒危険箇所を共有しよう！

危険マップは、職場の平面図等に労働災害発生の危険箇所を明示して注意喚起するためのものです。

- ①職場の平面図（マップ）を用意します。
ない場合は新たに作成します。
- ②転倒危険箇所を従業員参加で洗いだします。
- ③マップに転倒危険箇所を明示し危険マップを作成します。
- ④掲示するなどして周知します。



4 作成のポイント！

- 1 危険箇所の洗い出しをする際
 - (1)転倒災害発生箇所があれば盛り込みましょう。
 - (2)ヒヤリハット（転倒災害を起こしかけたが転倒災害に至らなかった事象）があれば盛り込みましょう。
- 2 写真を活用すると誰が見てもわかりやすいです。
- 3 冬季に凍結箇所を確認し、記録しておくことで来年度の冬季の始まりの注意喚起に活用できます。
- 4 冬季の転倒危険箇所を検討する上で凍結しやすい場所などに注意。
 - (1)日陰（凍結後、溶けにくい）
 - (2)駐車場で車の通行が多い箇所（タイヤに磨かれてツルツルになった路面をミラーアイスパーンといいます）
 - (3)斜面（凍結時、滑りやすい）

5 冬季は特に転倒災害が増えます！

- 1 会社の代表者・安全の責任者は、冬季の始まりに注意喚起しましょう！
- 2 従業員一人一人が冬靴の準備など、冬季の転倒災害に備えましょう！



危険マップの例

つまずき危険箇所
ブロックが盛り上がり、わかり
づらい段差がある。



踏み外し危険箇所
滑り危険箇所（冬季）
街灯がなく夜間見えづらい。手すりを
使って昇降すること。日陰のため冬季は
凍結注意。



合同庁舎

駐輪場

踏み外し危険箇所
手すりを使って昇降すること。



駐車場

滑り危険箇所（冬季）
冬季にミラーアイスバーン（凍
結路面）の可能性がある。斜面
になっており、凍結時滑りやす
い。



駐車場

